

「コロナに負けるな!!!」 すすきの復活祭

人類が「新型コロナ」と闘う中、我々の日常も昨年までとは様変わり。とはいえ、本誌の“夏のすすきの”特集を楽しみにしている読者も多いはず。そこで今月号は採算度外視で、甦ったすすきの“現在”をお届けする。

① まぼろしの銘酒がズラリ 辛党マニアの和風「日本酒」バー

バーと言えば洋風のイメージがあるが、日本酒にこだわったレアな和風バーがある。昨年5月にオープンした日本酒バー「あげは」で、手に入り

手に入りにくい純米大吟醸で、酸味と甘みの調和がとれたフルーティーな味わい。

「音楽を聴かせると植物が元気になる発想でつくられた超レアな日本酒です」(店長)

この酒は蔵元がジャンルを公開していないため、業界では普通酒として扱われている。

「農口尚彦」は日本で最高齢の杜氏で、現代の名



▲左から「ポー・ミッシェル」、「農口尚彦」、新政「ナンバー6」

酒は全国各地の銘酒40種類を揃える。なかでもおススメは①秋田県の新政「ナンバー6」(1400円)と②長野県の「ポー・ミッシェル」(900円)、③石川県の「農口尚彦」(900円)の3銘柄。

新政「ナンバー6」は、

00円まで。
「マニアの方はもちろん、初心者でも気軽に楽しんでいたため、いろいろ

ろな日本酒を揃え、春夏秋冬に応じた飲み方を提案しています」(店長)

そのほか、肴に「あん

肝(800円)や「たこわさ」(700円)、シメに「お茶漬け」(700円)もある。

証言
そして、
(トイレの鍵を閉めた瞬間に……。その後も彼はヒルズのトイレばかりを指定して……)

② お笑い芸人の「不倫」で発見 「多目的トイレ」の使い方

文春砲がまたまた火を吹いた。
お笑い芸人・渡部某と複数の女性との不倫が『週刊文春』の取材で明らかになったのだ。

Xさんは、多いときには週2回ほど関係を持っていました。…渡部が密会場所として指定するようになったの

つたのが、東京都港区に聳える六本木ヒルズ。そして、地下駐車場に隣接した多目的トイレに来

いたから、渡部のような味のコメント。
すすきのプレイボーイと評判のP氏は、
「いままで、多目的トイレは体の不自由な人などが介助者と一緒に入れるところだとばかり思っていたから、渡部のような



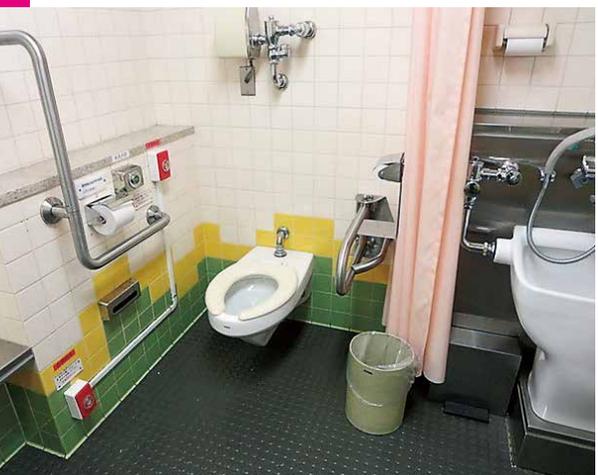
▲和風情緒のボックス席

工に認定された農口尚彦氏(87)が手がける銘酒。酸味・辛味・苦味に加え、ほんのりと甘味がある奥の深い本醸造で、辛党マニアの間で人気だ。

この店では日本酒専用のワイングラスを使用。すべてショット売りで、価格は700円から28

●日本酒バー あげは
札幌市中央区南6条西4丁目
G4ビル9F
☎(011)206・0604

驚いたのは、「あんな美人の妻(佐々木希)がいながら…」というものや「あんなくだらない芸だけで、年収が1億円もあるの」というものだが、一番驚いたのは「密会場所が六本木ヒルズの多目的トイレだった」と



▲札幌地下鉄某駅の多目的トイレ

と、少々八つ当たり気味のコメント。
すすきのプレイボーイと評判のP氏は、
「いままで、多目的トイレは体の不自由な人などが介助者と一緒に入れるところだとばかり思っていたから、渡部のような



続きは『**月刊クオリティ**』本誌を
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから
<http://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

TEL 011-644-0101

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)